

さわらび

2018. 11. 6 No. 22 文責：大塚

和気あいあいと、防災ワークショップ



11月3日(土)は、「四万十市みんなで防災訓練」のため市内あちこちで防災に関する取組が行われました。本校でも、地域の皆様、保護者の皆様と生徒・教職員が一緒になって、防災ワークショップをして学び合

いました。

この企画は、本校の学校運営協議会の中で1学期中頃から協議をしてきました。また、藤岡地区自主防災組織代表の松田久義さんをはじめとする自主防災組織の皆さんとも9月に打ち合わせをしたり、PTA役員会でも準備をするなどして進めてきました。

松田さんに積極的に声掛けしていただき、当日は、生徒・教員(14名)も含めると参加者総数29名での会となりました。

今回の防災ワークショップの内容は、

いろいろな立場の人が、南海トラフ地震発生時から2週間後までに「起こりうること」を想像し、それについての対応や備えを考える。

というものでした。4つのグループに分かれて座り、私の方から近年の大震災の現状を写真や動画で紹介した後、

- ①地震発生後からの出来事を付箋に書いて出し合う
- ②その出来事についての対応を付箋に書いて出し合う
- ③今日の感想を交流

という活動を行いました。出た意見を「そうながやねえ」と受け止め合おうという約束のもと、和気あいあいと、そして真剣に学習がすすみました。中学生の意見を真剣に聞いてくださる地域の方、自分の体験から意見を出してくださる方……また、あい間には、「ぼくは名前は誰かねえ」ときいてくださったりと、防災の学びを通して、学校・生徒と地域の皆様のつながりへと広がっていく姿もありました。



～感想の一部を紹介します～

- 災害が起こったときは中学生の力が大きい。こういったことを定期的に行うことも大事。
- 同じ地区でも面識がない人がいるので、このような場を確保してコミュニケーションがとれる体制を作っていきたい。
- ワークショップを初めて体験して、実際に起きたときも、今、話したことを使うという自信がつくいい経験になった。
- 地域の方々も来てくれて、みんなで防災について話して、知らないこともたくさんあった。

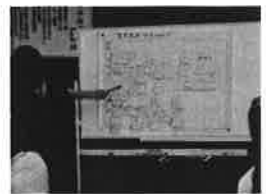


- 考えて行動することを疑似体験できた。
- 家族の安否確認の仕方を確認したい。

■話し合いだけでなく行動を起こすことが大事。意識をもって対応すること。

■実際に災害が起こったら、どのような行動をしたらいいか、どうすれば困らないかについて話し合えてよかった。

また、各グループからの発表はすべて中学生が担当しました。発表前には、地域の皆様が、どれを読むのかを一緒に見てくれたり、「大きい声で言わないかんぞ」と励ましてくれたりもありました。これも生徒たちにとっていい経験であったと思います。



約90分のワークショップの後は、保護者のみなさんが作ってくれたカレーライスに参加者でいただきました。ご飯は「防災参観日」なので、防災食のアルファ化米(松田さんに準備していただきました)です。そして、集合写真を撮って解散となりました。

防災は、災害を乗り越えた先の自分たちの未来のための取組です。乗り越えた先の夢や希望を語るための学習なのですから、暗いものではなく、和気あいあいとやっていただければと思います。

ワークショップの最初の説明で、私の方からお話しさせていただいたこと。まさに、参加者の皆様でこういう会にさせていただけたと実感しています。参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。



中央区音楽祭のお知らせ

先日、プログラムも配付いたしましたが、下記のように開催されます。今年度は、大用中・八東中との3校合同での合唱や合奏です。合同練習も2回行ってきました。

お忙しい中とは思いますが、生徒の発表をぜひお聞きください。

○期日 11月9日(金)

○会場 四万十市立文化センター

※この日は弁当日です。